Mother Goose's Melodies for Children, or Songs for the Nursery に関する一考察

藤野紀男

はじめに

Mother Goose's Melodies for Children, or Songs for the Nursery [1] (1869 年[2]) ──以下、*Mother Goose's Melodies for Children* と略記する──は

(1) 大判のハードカバー本で、総頁数が206頁もある本格的な集成本であり、
(2) 収録している唄の数も390編とそれまででもっとも多いので

アメリカにおけるマザーグース集成史において重要な文献の一つと言ってよいであろう。

それにもかかわらず、これまでのマザーグース研究においてほとんど無視されて来たのである。そこでこの小論においては、この集成本の重要性とユニークさについて考察するとともに、これまでの書誌解題の誤りを正し、若干の所見を述べてみることにする。

I. 重要性について

アメリカにおいて1869年までに出版されたマザーグース集成を比べてみると次の通りである。

タ イ ト ル	頁数	唄数
Mother Goose's Melody [3] (1785, 1794,1799)	73	51
Mother Goose's Quatro [4] (c. 1825)	118	175
Mother Goose's Melodies [5] (c.1833)	96	168
Mother Goose's Melodies, selected and arranged by My Uncle Solomon [6] (1850)	95	115
The Mother Goose [7] (1852)	64?	127
The Only True Mother Goose Melodies [8] (1860)	100	164
Mother Goose's Melodies, containing all that have ever come to light of her memorable writings [9] (1865?)	96	222?

これらの集成と比べてみても、頁数と唄数の両方の点で、*Mother Goose's Melodies for Children* が群を抜いていることが分かる。これからだけでも、同書の重要性が示されたと言えるであろう。

さらに、イギリスにおいて1869年までに出版された主なマザーグース集成を拾ってみると次のようになる。

タ　イ　ト　ル	頁数	唄数
Tommy Thumb's Pretty Song Book, Voll.II[10] (1744)	64	39
Mother Goose's Melody [11] (1780)	73	51
Gammer Gurton's Garland[12] (1784)	66	79
The Nursery Rhyme's of England[13] (1842)	192	300
Nursery Rhymes, Tales and Jingles[14] (1844)	104	168
Old Nurse's Book of Rhymes, Jingles and Ditties[15] (1858)	64	170

The Nursery Rhymes of England は1843年刊の第２版（ 410編)、1844年刊の第３版（468編）、1846年刊の第４版（547編）、1853年刊の第５版（659編）と、版を重ねるごとに唄数を増やしていった、という事実を考慮に入れても、*Mother Goose's Melodies for Children* がイギリスのマザーグース集成と比べてもそんなに引けを取っていないことが分かる。

これらの事実から引き出せる結論は「イギリスとアメリカを含めたマザーグース集成史においても、*Mother Goose's Melodies for Children* は重要な文献の一つに数えることが出来る」ということである。

II. ユニークさについて

さて、この集成のユニークさについてであるが、タイトルのすぐ下に 'With Notes, Music, and an Account of the Goose or Vergoose Family' と記されているように、「マザーグース＝アメリカ人説」に基づいて編集出版されたものだということにある。

１.マザーグース=アメリカ人説

ところで、この「マザーグース=アメリカ人説」というのは、John Fleet Eliot なる者が、'Requiescat' という仮名で1860年１月14日付の*Boston Transcript* に投書した一文に始まるものなのである。投書の骨子をごく簡単にまとめると

> ボストン在住のエリザベス・グース夫人(1665-1757) が孫のために唄ってやった子守唄やその他のたわいない唄などをまとめたものが*Songs for the Nursery; or, Mother Goose's Melodies for Children* で、印刷屋であった娘婿のトーマス・フリート(1685?−1758) によって1719年に出版されたのである

ということになろう。
この主張は

(1) 実在したエリザベス・グース夫人やトーマス・フリートを持ち出していて、
(2) *Verses for Children* と題する小冊子が売られていた記録がある1719年に出版年を設定しているし、
(3) シャルル・ペローの童話集の英訳本――口絵の中の 'CONTES DE MA MERE LOYE' が 'Mother Goose's Tales' と訳された――の出版年(1729年) よりも前にしており、
(4) タイトルも「架空の人物の名前を含めた長いもの」という18世紀の風潮に合わせている

ことなどからも分かる通り、実にうまく組み立てられているのである。
たしかに、

(1) この集成に関する出版広告、出版そのものやタイトル、内容への言及が全く見つからないこと、
(2) この集成がどの図書館や蔵書家にも所有された記述がないこと、
(3) 投書者がトーマス・フリートの曾孫にあたるジョン・フリート・エリオットであること
(4) エリオットの根拠というのが、「エドワード・A・クラウニンシールド(1818?–1859)が1843年にAmerican Antiquarian Society――以下、AAS と略記する――の図書館で 'a fragmentary copy of the Fleet book' を見たという話を1856年になってから聞いた」というにすぎないこと

などが分かってくるにつれて、この主張は次第に否定されてゆくのである。
しかし、

> American affection for Mother Goose seems to have given rise to a strange piece of invented history.[16]

というだけでなく、アメリカが "イギリス何するものぞ" の意気に燃えていた頃であったので、マザーグースがアメリカ人であったという話は彼らの素朴な愛国心に訴えるところが大きかったのであろう。とにかく、

> This story, possibly because with its attendant details it is such an entertaining story, continues to have wide circulation.[17]

とか、

> John Fleet Eliot's story was soon taken up and printed as fact in reference books and introductions to new Mother Goose book .[18]

といわれているように、この主張は短期間の間にかなりの勢いで広まってゆき、いつの間にか確固たる説として受け容れられて、とうとう伝説に化してしまうのである。

2．ユニークさ

この「マザーグース=アメリカ人説」との関係でこの集成を見直してみると、タイトルと内容の両方の点でこの説に大きく肩入れをしていることが分かるのである。

タイトル　まず、*Mother Goose's Melodies for Children, or Songs for the Nursery* というタイトルについて見ると、'or' の前後を入れ替えれば *Songs for the Nursery; or Mother Goose's Melodies for Children* となり、1719年に出版されたとされている集成のタイトルになる。すなわち、1719年に出版されたとされる集成のタイトルの 'or' の前後を入れ替えたものをタイトルに採用しているのである。

内容　本の内容においては、'Preface' と 'The Goose or Vergoose Family' において「マザーグース=アメリカ人説」を展開している。

まず、'Preface' は４頁半近くあり、最後に 'G.A.R.' と 'Boston, November 6, 1869' と記されていて、J.F.エリオットの投書を要約した話が盛り込まれている。

'The Goose or Vergoose Family' と題する文章は、Vergoose （のちにGoose と短縮）家の歴史、とくにIsaac Goose （1637？－1710）とElizabeth Foster の結婚以後の系図や遺産について、８頁と４分の１にわたって詳しく記述している。

これらに、さらに献辞 (To John Fleet Eliot, the great-great-grandson of Elizabeth Goose) のある事実を加えれば、この集成が「マザーグース=アメリカ人説」を信じている者によって編集され、同説を普遍させんとして出版されたことを信じることが出来よう。

III. 書誌解題の誤り

このように重要な文献の一つであるにもかかわらず、*Mother Goose's Melodies for Children* は*The Oxford Dictionary of Nursery Rhymes*[19] (1951年）や、*Mother Goose: from Nursery to Literature*[20] (1987年) にも取り上げられていず、*The Annotated Mother Goose*[20] (1962年) ──以下、AMG と略記する── だけが 'Bibliography' の中で次のような解題を載せているのである。

> *Mother Goose's Melody for Children, or Songs for the Nursery*, edited by William A. Wheeler. Boston and New York: Houghton Mifflin Company, 1869. Without credit to Mr. Wheeler, his collection was re-issued in 1872 as *Mother Goose's Melodies for Children*, with illustrations by Henry L. Stephens and Gaston Fay. It was again reissued, under its original title, but again with no credit to Mr. Wheeler, in 1884. This edition added illustrations in color by Alfred Kappes.

以下においてこの解題について検討してみることにする。

1．諸版について

Mother Goose's Melodies for Children には、これまでに判明した限りにおいて、1869年版（初版）、1872年版、1879年版、1884年版の４版があることになるのである。と言うのも

A. 1869年版（初版）　　AAS 蔵（手元にコピーあり）

B. 1872年版（2版）　AAS蔵（AASによれば初版と同じとのこと）
C. 1879年版（3版）　手元に原本あり
D. 1884年版（4版）　デンバー大学図書館蔵（手元にコピーあり）

のように確認出来ているからである。

そこで、以上の中のA., C., D. の3版について比較を試みることにする。

2. 表紙の比較

同集成の初版、3版、4版についてはまず扉を比較してみると次のようになる。

	1869年版	1879年版	1884年版
タイトル	*Mother Goose's Melodies for Children, or Songs for the Nursery*	*Mother Goose's Melodies, or Songs for the Nursery*	同左
タイトルに続く文句	With Notes, Music, and an Account of the Goose or Vergoose Family	――	――
編集者	――	――	William A. Wheeler
イラストレーター	Henry L. Stephens and Gaston Fay	Alfred Kappes	（記されていないが1869年版と同じである）
シェークスピアからの引用	Unconsidered Trifles	同左	同左
図版	――	カンテラを口ばしにさげたフクロウ	同左
出版社	Hurd and Houghton	Houghton, Osgood and Company	Houghton Mifflin Company
出版年	1869	1879	――

これからだけでもAMG　の解題の間違いを指摘できるのだが、さらに頁立てやその中味の相違についても見てみる。

3. 頁立てなどの比較

頁立てやその中味について比較してみると次のようになる。

<table>
<tr><td colspan="2"></td><td>1869年版</td><td>1879年版</td><td>1884年版</td></tr>
<tr><td colspan="2">刊記</td><td>1869年登記</td><td>1869年登記。1878年版権</td><td>1869年登記。1878年版権</td></tr>
<tr><td colspan="2">献辞</td><td>To John Fleet Eliot</td><td>同左（引用と入れ替え）</td><td>同左（同左）</td></tr>
<tr><td colspan="2">引用</td><td>Halliwellから</td><td>同左</td><td>同左</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">Preface</td><td>4頁と3分の1</td><td>4頁</td><td>4頁</td></tr>
<tr><td>'G.A.R'[23] と'Boston, November 6, 1869'</td><td>―――</td><td>―――</td></tr>
<tr><td colspan="2">再刊の挨拶</td><td>4行</td><td>―――</td><td>―――</td></tr>
<tr><td colspan="2">短い文</td><td>Ferguson名</td><td>同左</td><td>同左</td></tr>
<tr><td colspan="2">The Goose or Vergoose Family</td><td>9頁</td><td>同左</td><td>同左</td></tr>
<tr><td colspan="2">短い文</td><td>無記名</td><td>同左</td><td>同左</td></tr>
<tr><td colspan="2">イラストのリスト</td><td>―――</td><td>あり</td><td>―――</td></tr>
<tr><td rowspan="2">本文</td><td>唄</td><td>161頁(390編)</td><td>同左</td><td>同左</td></tr>
<tr><td>譜面</td><td>10頁(9編)</td><td>同左</td><td>同左</td></tr>
<tr><td colspan="2">Notes</td><td>14頁</td><td>同左</td><td>同左</td></tr>
</table>

さらに、頁大のイラストの数は18と同じでありながら挿入個所がいくぶん違っているとか、9編の譜面のうち２点が入れ替わっているなどの相違が見つかっている。

4. 解題の訂正

AMG に掲載されている書誌解題では

(1) 初版のタイトルが*Mother Goose's Melody for Children, or Songs for the Nursery* で、

(2) 同書の編者は William A. Wheeler で、

(3) Houhton Mifflin Company から

(4) 1869年に出版され、
(5) 1872年に編者の William A. Wheeler の名前を載せないまま、
(6) Henry L. Stephens とGaston Fay のイラストが添えられ、
(7) タイトルが*Mother Goose's Melodies for Children* と変えられた上で再刊され、
(8) さらに、1884年にタイトルが元の*Mother Goose's Melodies for Children, or Songs for the Nursery* に戻されて、
(9) 今度も William A. Wheeler の名前を載せないまま、
(10) Aflred Kappes のカラーのイラストが加えられて再刊された

と説明されているわけである。

しかし、これまでに確認してきたことからも分かる通り、この解題では(4)の「初版の出版年」と(5)の「第２版にWheeler の名前が載っていないこと」と言う２点についてだけ正しいと言えるのであって、他の８点についてはすべて誤っていると言わざるを得ないのである。

したがって、

(1) 見出しは初版のタイトルである*Mother Goose's Melodies for Children, or Songs for the Nursery* を用い、
(2) 出版社名をHurd and Houghton とし、
(3) 最初からHenry L. Stephens とGaston Fay のイラストが添えられていたことを明記し、
(4) 1879年にイラストレーターがAflred Kappes に代えられると同時に、
(5)タイトルも *Mother Goose's Melodies, or Songs for the Nursery* と短縮されて、
(6) Houghton, Osgood and Company から出版され、
(7) 1884年になって初めて編者としてWilliam A. Wheeler の名前が使われ、
(8) イラストはイラストレーターの名前を記さないまま1869年版のものに戻されて、
(9) Houghton Mifflin Company から出版された

というふうに説明されるべきであるということになる。

おわりに

以上で、*Mother Goose's Melodies for Children* が、「アメリカにおけるマザーグース集成史」において大変に重要な文献であること、さらに、「イギリスを含めたマザーグース集成史においてもかなり重要な文献であること」を検証でき、また、「マザーグース＝アメリカ人説」に基づいて編集出版されたものであることにそのユニークさがあることも示せた筈である。

さらに、そのように重要かつユニークな文献である同書の書誌解題が間違いだらけであること、そして、どのように訂正されるべきであるかということも示せたものと確信している。たとえば、

> *Mother Goose's Melodies for Children, or Songs for the Nursery*, Cambridge: Hurd and Houghton, 1869.
> With illustrations by Henry L. Stephens and Gaston Fay. Re-issued in 1879 as *Mother Goose's Melodies or Songs for the Nursery*, with illustrations by Alfred Kappes, by Houghton, Osgood and Company in Boston. Again re-issued by Houghton Mifflin Company in Boston and New York, in 1884, with credit to William A. Wheeler as the editor and with illustrations by Stephens and Fay without credit.

とでもすべきであろう。

註

1. Cambridge: Hurd and Houghton. （表紙には会社の所在地が記されていない。刊記からCambridgeと推量するに過ぎず、Bostonである可能性も高い。）
2. William H. Whitmoreは*The Original Mother Goose's Melody* (1889年）に付けたPrefaceの中で1870年としているし、*A Dictionary of Books Relating to America* でも1870年とされているが、ここでは表紙に記されている通りとしておく。
3. Worcester: Isaiah Thomas （イギリスで出版された本の海賊出版である。）
4. Boston: Munroe and Francis （正しいタイトルは*Mother Goose's Quatro: or Melodeis Complete.*）
5. Boston: Munroe and Francis （正しいタイトルは *Mother Goose's Melodies The only Pure Edition.*）
6. Portland: S. H. Colesworthy.
7. New York: Leavitt & Allen. （扉では *The Mother Goose; Containing All The Melodies The Old Lady Ever Wrote* となっている。）
8. Boston: C. W. Cottrell. (*Mother Goose's Melodies* の後継版である。）
9. New York: James Miller.
10. London: Mary Cooper.
11. London: Thomas Carnan. （正しいタイトルは*Mother Goose's Melody: or, Sonnets for the Cradle.* I 部のマザーグース集とII 部の 'Songs and Lullabies by Shakespeare' から成っているが、ここではI部だけを取り上げている。
12. London : R. Christopher. 1799年に再刊され、1810年に増補版(135編）が出版された。（正しいタイトルは*Gammer Gurton's Garland: or, The Nursery Parnassus.* 1810年版をのぞき編者はJoseph Ritson.)
13. London: T. Richard （編者はJames O. Halliwell)
14. London: James Burns.
15. London: Griffith and Farran. （編者はCharles H. Bennett)
16. Humphrey Carpenter and Mari Prichard eds., *The Oxford Comapnion to Children's Literature* (Oxford: Oxford University Press, 1984) p.362
17. Iona and Peter Opie eds., *The Oxford Dictionary of Nursery Rhymes* (Oxford: Oxford University Press) p.38
18. 16.
19. 17.

20 Gloria T. Delamar. Jefferson (NC): McFarland and Company.

21. William S. Baring-Gould and Ceil Baring-Gould. New York: Bramhall House.
22. 表紙に出版年が印刷されていないが、刊記の中に 'Copyright, 1878, by Houghton, Osgood & Co. とあり、AMG にある1884年版と同じものであると考えられる。

23 *A Dictionary of Books Relating to America* (1932年）は ' "G.A.R." [W.A. Wheeler]' とはっきり書いている。その可能性が大いにあることは認めたい。

24. William A. Wheeler (1833–74) かなり名の知られた言語学者で、早くから「マザーグース＝アメリカ人説」の信奉者で、自分が編集した*A Dictionary of the Noted Names of Fiction* (1886年）において 'Mother Goose' の項で注記の形を取ってこの説を詳しく説明している。